

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成23年11月10日 (2011.11.10)

【公表番号】特表2010-540230(P2010-540230A)

【公表日】平成22年12月24日 (2010.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2010-051

【出願番号】特願2010-527132(P2010-527132)

【国際特許分類】

B 0 1 D 53/86 (2006.01)

B 0 1 J 23/72 (2006.01)

B 0 1 J 29/76 (2006.01)

B 0 1 J 29/14 (2006.01)

B 0 1 J 29/46 (2006.01)

B 0 1 J 29/24 (2006.01)

B 0 1 J 29/68 (2006.01)

【 F I 】

B 0 1 D 53/36 E

B 0 1 J 23/72 A

B 0 1 J 29/76 A

B 0 1 J 29/14 A

B 0 1 J 29/46 A

B 0 1 J 29/24 A

B 0 1 J 29/68 A

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月22日 (2011.9.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

選択的接触還元 (SCR) 系を装備した固定燃焼源により発生される煙道ガス流を処理するための、ならびに未反応アンモニアを窒素に選択的に酸化するための方法であって、以下の：

(a) 前記未反応アンモニアを含有する前記煙道ガス流を酸化剤の存在下でアンモニア酸化触媒と接触させるステップ (ここで、前記アンモニア酸化触媒はゼオライト、貴金属および卑金属化合物を含む) ; ならびに

(b) それにより前記未反応アンモニアを窒素に酸化するステップ
を包含する方法。

【請求項 2】

前記アンモニア酸化触媒が、前記選択的接触還元系から下流に置かれる請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記アンモニア酸化触媒が、前記選択的接触還元系に付加される請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

前記貴金属が、白金、パラジウム、ロジウムおよび金からなる群から選択される請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

前記貴金属が白金である請求項 4 記載の方法。

【請求項 6】

前記貴金属負荷が約 0.1 g / ft^3 から約 100 g / ft^3 までである請求項 1 ~ 5 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】

前記貴金属含量が、前記ゼオライトの総重量の約 $0.02 \text{ 重量}\%$ ~ 約 $0.20 \text{ 重量}\%$ である請求項 1 ~ 6 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】

前記卑金属化合物が、前記ゼオライトの総重量の約 $2 \text{ 重量}\%$ ~ 約 $20 \text{ 重量}\%$ である請求項 1 ~ 7 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 9】

前記卑金属化合物が、銅、バナジウム、マンガン、亜鉛、ジルコニウムおよびモリブデン金属化合物からなる群から選択される請求項 1 ~ 8 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 10】

前記ゼオライトが、モルデナイト、フェリエライト、Y 型ゼオライト、ZSM-5 およびベータ・ゼオライトからなる群から選択される請求項 1 ~ 9 の何れか 1 項に記載の方法

。